

MITSUBISHI

三菱換気空清機 **クオースナイ**

壁掛1パイプ取付ロスナイ

形名

〈排湿タイプ〉
VL-08PS (-BE)
(引きひもタイプ)

VL-08EPS (-BE)
(壁スイッチタイプ)

VL-08PSR (-BE)
(ワイヤレスリモコンタイプ)

VL-08PS (-BE) -PK
(引きひもタイプ・部材バック品タイプ)
【よこ取付専用】

〈ロスナイ換気タイプ〉

〔寒冷地仕様・準寒冷地仕様・温暖地仕様〕

VL-10S (-BE) (-D, J, W)
(引きひもタイプ)

VL-10ES (-BE) (-D, J, W)
(壁スイッチタイプ)

VL-10SR (-BE) (-D, J, W)
(ワイヤレスリモコンタイプ)

VL-10S (-D, J) -PK
(引きひもタイプ・部材バック品タイプ)
【よこ取付専用】

寒冷地仕様品：形名に“-D”がついています
準寒冷地仕様品：形名に“-J”がついています
温暖地仕様品：形名に“-W”がついています

取付工事説明書

販売店・工事店さま用

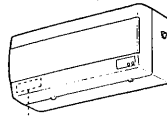
形名によって取付工事が異なりますので、あらかじめご使用の形名をご確認ください。

〈排湿タイプ〉

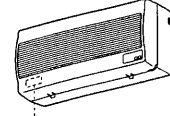
(VL-08タイプ)

〈ロスナイ換気タイプ〉

(VL-10タイプ)



形名表示位置



形名表示位置

この製品は、使用する地域の温度の違いにより仕様を分けています。地域区分はカタログに記載されています。地域にあった製品かどうか確認してください。※温暖地でも外風の影響を受けやすいところ(中・高層住宅や海岸沿いなど)では準寒冷地仕様品をご使用ください。

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

- この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この取付工事説明書をよくお読みください。
- 取付工事は販売店・工事店さまが実施してください。間違った工事は、故障や事故の原因になります。
- お客さまご自身の工事は、故障や事故の原因になります。

1. タイプ別の違い

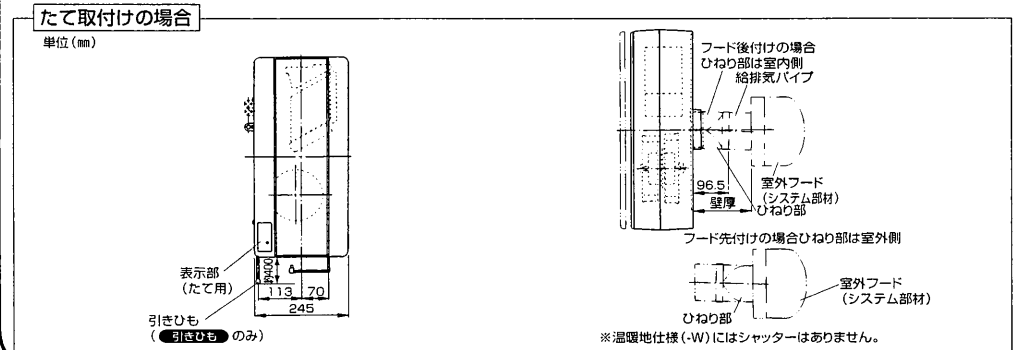
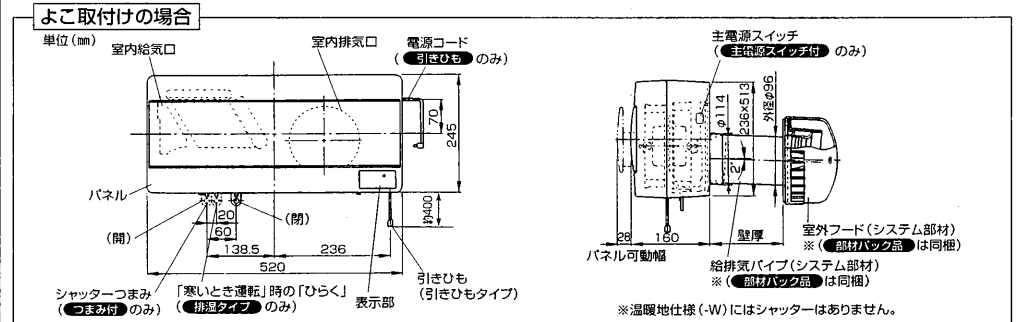
タイプ別に違いがありますので、あらかじめ形名を確認してください。※本文中では、表中のマークを使って説明しています。

排湿タイプ	形名	ドレンパン付	シャッター		電気式	部材バック品	引きひも	リモコン付	主電源スイッチ付
			シャッター つまみ付 (手動式)	つまみ付					
(マーク=排湿タイプ)	VL-08PS (-BE)	ドレンパン付	つまみ付	—	—	—	引きひも	—	—
	VL-08EPS (-BE)	ドレンパン付	—	電気式	—	—	—	—	主電源スイッチ付
	VL-08PSR (-BE)	ドレンパン付	—	電気式	—	—	リモコン付	—	主電源スイッチ付
	VL-08PS (-BE) -PK	ドレンパン付	つまみ付	—	部材バック品	—	引きひも	—	—
ロスナイ換気タイプ	VL-10S (-BE) -D	ドレンパン付	つまみ付	—	—	—	引きひも	—	—
	VL-10ES (-BE) -D	ドレンパン付	—	電気式	—	—	—	—	—
	VL-10SR (-BE) -D	ドレンパン付	—	電気式	—	—	リモコン付	—	主電源スイッチ付
	VL-10S -D -PK	ドレンパン付	つまみ付	—	部材バック品	—	引きひも	—	—
	VL-10S (-BE) -J	—	つまみ付	—	—	—	引きひも	—	—
	VL-10ES (-BE) -J	—	—	電気式	—	—	—	—	—
	VL-10SR (-BE) -J	—	—	電気式	—	—	リモコン付	—	主電源スイッチ付
	VL-10S -J -PK	—	つまみ付	—	部材バック品	—	引きひも	—	—
	VL-10S (-BE) -W	—	—	—	—	—	引きひも	—	—
	VL-10ES (-BE) -W	—	—	シャッターなし	—	—	—	—	—
VL-10SR (-BE) -W	—	—	—	—	—	リモコン付	—	主電源スイッチ付	

※リモコン付は、別売の電源コード (P-01DC、P-250DC) で電源コード付に変更が可能です。※引きひもタイプには、電源コードが付いています。

2. 外形寸法図

※説明のために全機種の機能を表示しています。(本図は排湿タイプで表示しています)



安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの



分解禁止

- 改造や必要以上の分解はしない (火災・感電・けがの原因となります)



風呂・シャワー室での使用禁止

- 浴室など湿気の多い所には本体・壁スイッチとも取付けない (感電・漏電の原因になることがあります)



指示に従い必ず行う

- 交流100Vを使用する (直流や交流200Vを使用すると感電の原因になります)
- 外気の取り入れ口は燃焼ガス等の排気ガスを吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ (新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になるおそれがあります)
- 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に進行 (落下によりけがをすることがあります)
- 端子台接続部のある機種は、指定の電線を使用し、抜けないように確実に接続する (接続に不備があると火災のおそれがあります)
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工士)が安全・確実に進行 (接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因になります)



注意

誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの



禁止

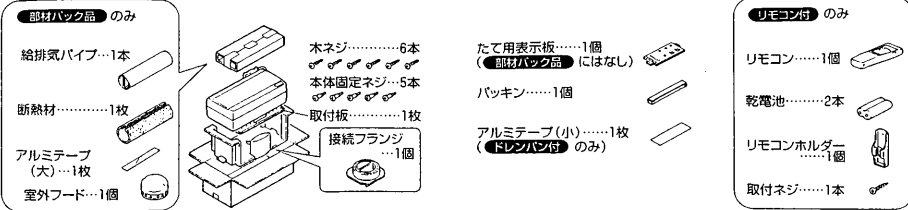
- 壁取付専用のため、天井には取付けない (落下によりけがをすることがあります)
- 高温(40℃以上)になる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所や有機溶剤がかかる場所には取付けない (火災のおそれがあります)



指示に従い必ず行う

- 端子台カバーは工事後、必ず取付ける (ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります)
- 取付けの際は手袋を着用する (着用しないとけがをすることがあります)
- 給排気パイプは室外に向かって下りこう配になるように取付け、断熱処理を確実に進行 (雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因になります)
- ドレン排出は、取付工事説明書に従って確実に進行 (水漏れによる感電・火災や家財の破損のおそれがあります)
- 専用システム部材の室外フードを取付ける (雨水の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因になります)
- 取付け後長期間使用しない場合は、必ず分電盤のブレーカーを切るか、電源プラグをコンセントから抜く (絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります)

3. 同梱部品を確認してください



システム部材(別売)が必要です ※カタログ参照の上専用のシステムをお選びください。

この製品は同一本体で「よこ取付け」・「たて取付け」/「フード先付け」・「フード後付け」ができます。取付けにともない下記のシステム部材が必要です。壁厚により給排気パイプは異なります。

	よこ取付け		たて取付け	
	壁厚	壁厚	壁厚	壁厚
フード後付け	300mm以下 給排気パイプ P-30P-S	1000mm以下 給排気パイプ P-100P-S	300mm以下 給排気パイプ P-30P-T	1000mm以下 給排気パイプ P-100P-T
フード先付け	給排気パイプ P-30P-S パイプ固定板 P-50AP	給排気パイプ P-100P-S パイプ固定板 P-50AP	給排気パイプ P-30P-T パイプ固定板 P-50AP	給排気パイプ P-100P-T パイプ固定板 P-50AP

※上記の他に室外フードが必要です。
※**断熱材**は室外フード (P-50CVP2) と給排気パイプ (P-30P-S) を同梱しています。
※よこ取付け専用です。
※壁スイッチタイプの場合、コントロールスイッチも必要です。

4. 取付けの前に

1. 取付板をはずす

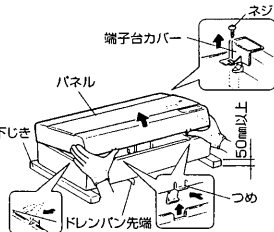
本体背面のテープをはがして取付板をはずす
●ドレンパン (ドレンパン付) の先端を保護するため右図のように下じきを敷く。
●本体の傷防止のためダンボールなどを敷いてください。

2. パネルをはずす

右図のように、つめを押さえながら上に引き上げ、右側をさらに開けてパネルをはずす。
(落下防止のため、左側が一旦引かかるようになっています)
●パネルをはずした後、本体内部にネジなどが入らないように注意してください。

3. コネクタリードをはずす (引き込み以外)

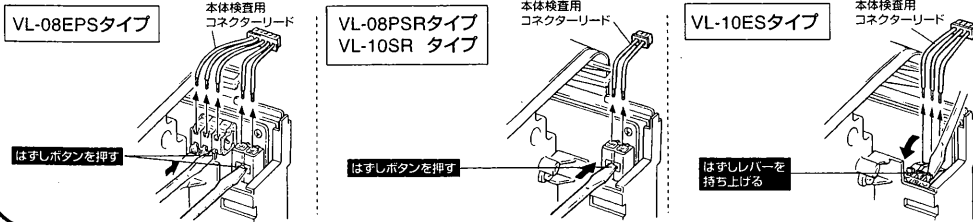
1. ネジ1本をはずして端子台カバーをはずす。
2. 本体検査用のコネクタリードを取りはずす
●コネクタリードは以後、不要です。
※無理に引っばらないでください。(基板破損の原因になります)



VL-08EPSタイプ

VL-08PSRタイプ VL-10SRタイプ

VL-10ESタイプ

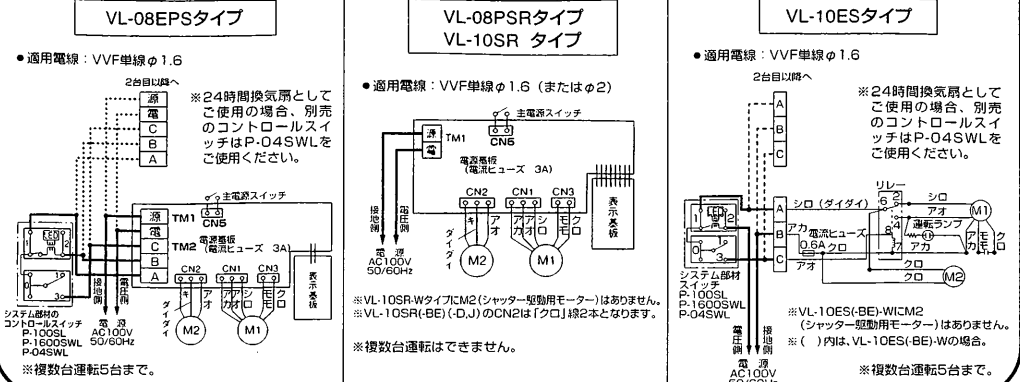


5. 取付方法 裏面を見る

室外フードを本体よりも先に取付けるか (フード先付け)、後に取付けるか (フード後付け) によって取付方法が異なります。詳しくは裏面を見てください。

6. 結線図 100V専用・誤結線注意

■太線、破線部分の結線をしてください。●お願い ●結線前にコネクタリードをはずしてください (「4.取付けの前」参照)



7. 取付工事後の確認

■取付工事終了後、試運転の前にチェック表にしたがって点検します。
■不具合があった場合は必ず直してください。(機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません)
■チェック表

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
取付工事	本体の取付け強度は十分ですか?	補強する	
	本体が確実に取付けられていますか?	本体固定ネジを確認する	
試運転	コーキングはしましたか? (接続部、室外フード)	コーキングをする (コーキングをしないと雨水が浸入します)	
	たて取付けの場合、表示板をつかえましたか?	たて用表示板を取付ける	
運転	電圧は100Vですか? (買電圧を印加すると破損します)	100Vに直す (買電圧を印加すると破損します)	
	主電源スイッチが閉じていますか? (主電源スイッチ付)	主電源スイッチを入れる	
確認	スイッチの操作と本体動作は合っていますか? (接続のノッチは切り換わりますか?)	誤結線です 結線図に従って結線をやり直す (壁スイッチタイプの場合【電圧フェーズ表】を確認します)	
	羽根が動きがしていませんか? (可動パネルが正しく動きますか?)	パネルをはずしてゴミなどを取り除く (見える範囲のみ)	

VL-08EPSタイプ

■電圧チェック表

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック値
停止	切	線-A	0
	強	線-B	100V
運転	弱	線-C	0
	入	線-A	100V
強運転	強	線-B	100V
	強	線-C	0
弱運転	入	線-A	100V
	弱	線-B	100V
強運転	強	線-C	100V
	強	線-A	100V

VL-10ESタイプ

■電圧チェック表

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック値
停止	切	A-B	0
	強	A-C	0
運転	弱	B-C	0
	入	A-B	100V
強運転	強	A-C	100V
	強	B-C	0
弱運転	入	A-B	100V
	弱	A-C	0
強運転	強	A-B	100V
	強	A-C	100V

●測定した電圧が上表の端子間電圧と異なる場合は、誤結線されているか、適用外スイッチ (ホテルスイッチ、電子式スイッチなど) の使用が原因と考えられます。通電を停止して、当社指定スイッチへの変更などを実施し、再度結線図に基づき配線をやり直し、チェックをしてください。

※端子間電圧は、電源電圧の変動により若干異なる場合があります。

8. 試運転

運転中にパネルの取付けは絶対に行わないでください。
(シャッター連動アーム (裏面) 6.パネルの取付け (※参照) が破損する場合があります。)

■できるだけお客さま立会いで、試運転を行ってください。

- 電源を入れる
1. 分電盤のブレーカーを入れる。
2. 電源プラグをコンセントに差し込む。(電源プラグ付のみ)
3. 主電源スイッチを入れる。(主電源スイッチ付のみ)

2. 運転状態の確認を行う

運転のしかたは、取扱説明書をご覧ください

- 異常な揺動・騒音がないか確認し、確認後停止する
1. 停止後、可動パネルが開いたことを確認する。(約10秒後、全開になります) **排湿タイプ**
2. 主電源スイッチを切にする。(主電源スイッチ付のみ)
3. 電源プラグをコンセントから抜く。(電源プラグ付のみ)
4. 分電盤のブレーカーを切る。

●お願い

●運転停止後すぐに主電源スイッチを切らないでください。(可動パネル **排湿タイプ** が開いたままになります)

お客さまへの説明

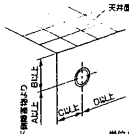
- 分電盤のブレーカーとコンセントまたは、壁スイッチの位置をお客さまへ説明してください。
- チェック表の結果をお客さまへお知らせください。
- 「リモコン」、「リモコンホルダー」、「乾電池」、「取付ネジ」をお客さまへお渡しください。
- この「取付工事説明書」は、別冊の「取扱説明書」とともにお客さまへお渡しいたします。
- お客さまが不在の場合は、発注者 (オーナーなど) または、管理人さまへ説明してください。

たて（袖壁）取付けの場合（↑矢印の方向を上にしてください。）※この方向で取付けてください。
（逆方向に取付けるとドレンが逆流し、内部を汚します）

壁穴工事

本体が変形しないように、取付位置が平らであることを確認してください。（異常音などの発生する原因となります）

必要空間距離



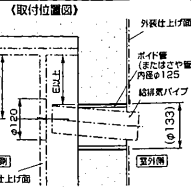
変換寸法	A	B	C	D	E	
排湿タイプ	よこ取付け	182	193	360	310	163
ロスナイ	たて取付け	310	360	182	193	330
換気タイプ	よこ取付け	182	193	310	310	163
	たて取付け	310	310	182	193	280

フード後付けの場合

- 取付位置・壁穴位置を決める
 - 必要空間距離（左図）を確認する。
 - 室外から不快なおいを給気しない位置であるか確認する。
 - 壁内の補強材が取付板を固定できる位置にあるか確認する。
 - 壁穴位置の中心に印をつける。
- φ 120の壁穴をあける

フード先付けの場合

- 取付位置・壁穴位置を決める
 - 必要空間距離（左図）と（取付位置図）（右図）を確認し、壁穴位置を決める。
- 壁穴をあける
 - 内径φ 125のポイド管（またはさや管）を入れ、コンクリート壁を作る。
 - ポイド管（またはさや管）を引き抜く。
- 外装壁面を仕上げる



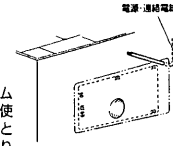
電源・連絡電線の引き出し

電源・連絡電線を引き出す

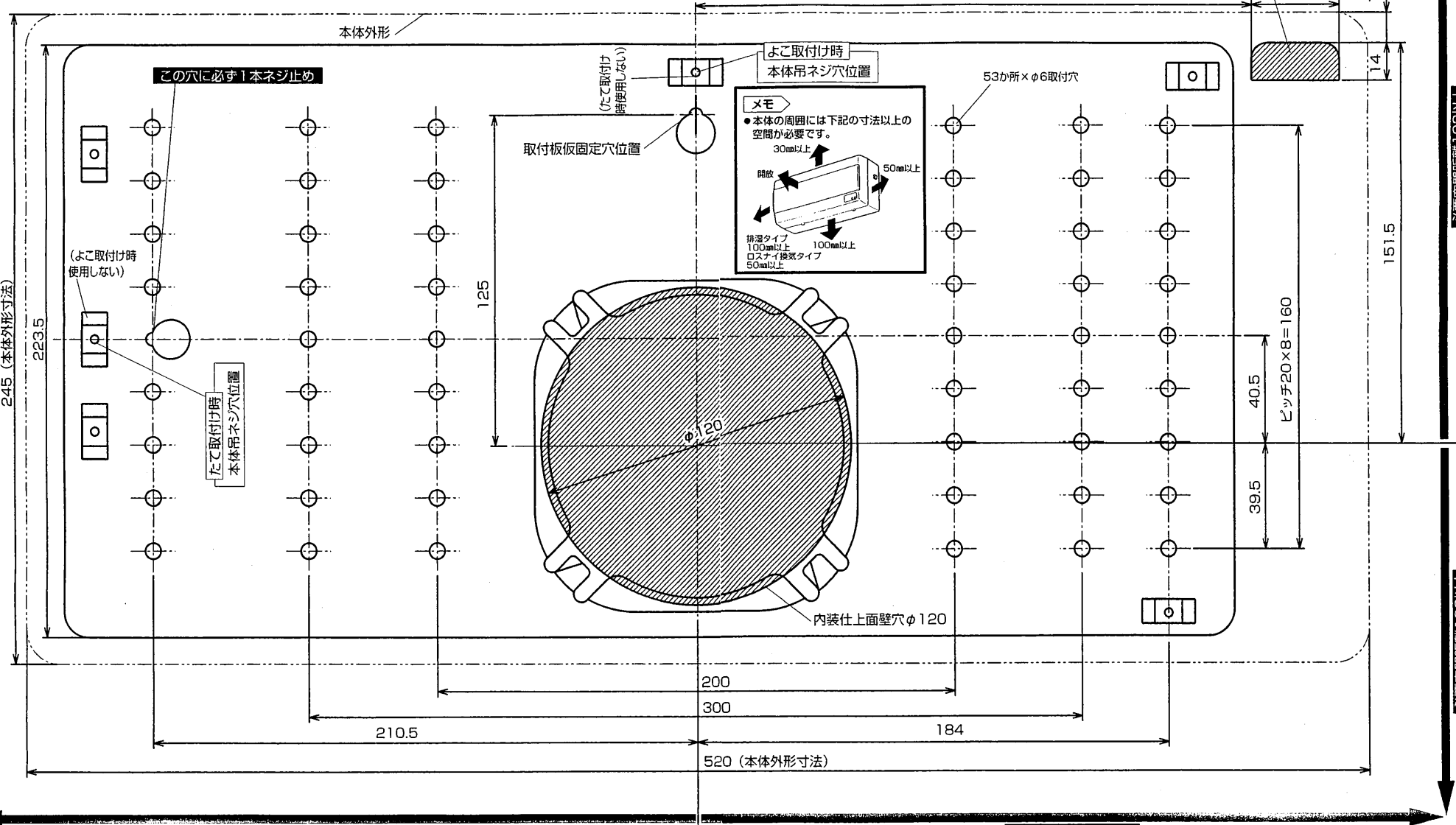
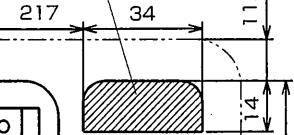
- （※E123を除く）
- 電源・連絡電線取り出し位置を確認し、穴をあける。
 - 電源・連絡電線を室内側へ引き出す。

メモ

ワイヤレスリモコンタイプの場合はシステム部材の変換コード（P-01DC、P-250DC）を使用すると電源プラグ対応になります。このときは電源・連絡電線の引き出しは不要となります。



電源コード取り出し範囲
（引きひも 除く）



必要空間距離360以上（排湿タイプ）
310以上（ロスナイ換気タイプ）

必要空間距離310以上

必要空間距離193以上

必要空間距離182以上

取付方法

フード後付けの場合

本体を壁に取付けた後で、フードを取付ける施工方法です。
※説明に使用しているイラストは排湿タイプの場合

1. 壁穴工事

◆壁穴工事

◆電源・連絡電線の引き出し(壁スイッチタイプのみ)

裏面を見る

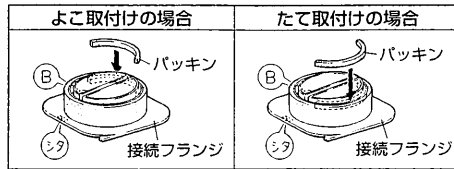
2. 取付け前の準備

1. 接続フランジにパッキンを入れる

接続フランジのパイプ接続側の溝にパッキン(同梱)を入れる。

お願い

- このパッキンはパイプにこう配をつけるために入れます。
- 本体の取付方向でパッキンの位置がちがいます。

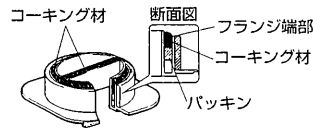


2. コーキング材の塗布

接続フランジにコーキング材を塗布する。

お願い

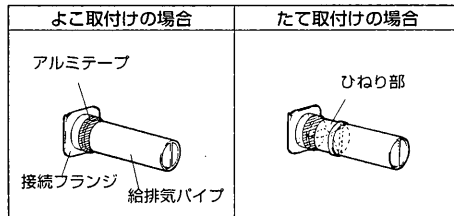
- フランジ端部より高く塗布してください。
- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング硬化前に次の作業を行ってください。



3. 接続フランジを給排気パイプに取付ける

- (1) 給排気パイプを接続フランジの溝の奥まで確実に入れる。
- (2) 接続フランジと給排気パイプをパイプに同梱のアルミテープ(大)を巻き付けて確実に固定する。

- 確実に固定しないと、ドレン水(ドレンパン付)が漏れるおそれがあります。
- お願い**
- たて取付けの場合必ず「ひねり部」が室内側へくするように差し込んでください。

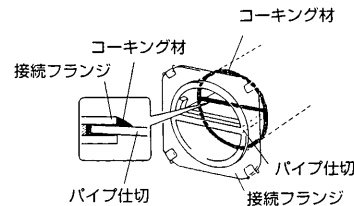


4. 接続フランジとパイプ接続部のコーキング

接続フランジと給排気パイプの接続部を内側からコーキングする。

お願い

- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング材をつけたあと表面を平らにしてください。
- コーキングが接続フランジよりも厚く塗らないでください。(ドレン水(ドレンパン付)が排出されません)

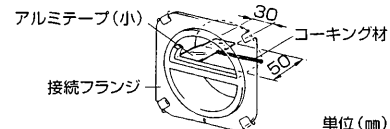


5. アルミテープの貼り付け(たて取付けの場合(ドレンパン付))

付属のアルミテープ(小)を図のように左端に貼る。

≡(情報)

- ドレンパン先端から出た水を流れやすくするために貼ります。

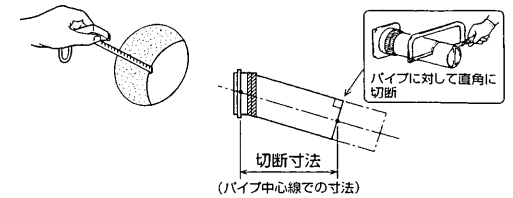


単位(mm)

6. 給排気パイプを切断する

- (1) 壁厚を測る。
- (2) 下表の寸法で給排気パイプを切断する。(室外フードによって切断寸法が異なります)

室外フード	切断寸法
防火ダンパーつき	壁厚+10mm
防火ダンパーなし	壁厚+30mm

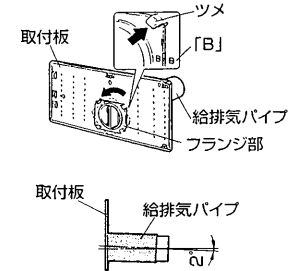


7. 給排気パイプを取付板に固定する

- (1) 給排気パイプを取付板に差し込む。
- (2) 左回りに回転させて、接続フランジをツメに引っ掛ける。
- (3) 給排気パイプが右図のように室外側に向かって下りこう配になっているか確認する。

お願い

- フランジにツメが4か所ともかかっていることを確認してください。
- 取付板の刻印「B」とフランジ部の刻印「B」が合うように取付けてください。
- 給排気パイプが下りこう配になっていないと、ドレン水の逆流(ドレンパン付)や雨水が浸入します。



8. 断熱材の切断

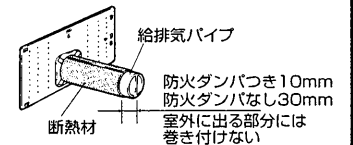
断熱材を壁厚寸法で切断する。

9. 給排気パイプに断熱材を巻き付ける

切断した断熱材を給排気パイプに巻き付ける。

お願い

- 断熱材は室外へ出る部分には巻き付けしないでください。フードが取付けられなくなります。



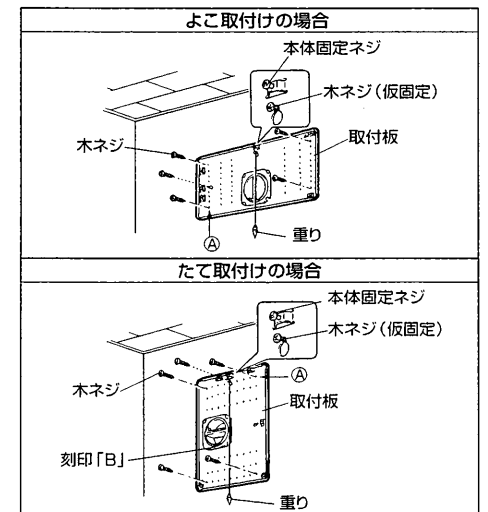
3. 取付板の取付け

取付板を固定する

- (1) 給排気パイプを壁穴に通す。
- (2) 取付板を木ネジ1本で仮固定する。(最後に締めつけてください)
- (3) 本体固定ネジ1本を本体吊用として取付板に取付ける。
- (4) 重りを吊り下げて、取付板の水平を確認する。
- (5) 壁内の補強材のある位置に木ネジ4本で取付板を固定する。
- (6) ①列中央を木ネジ1本で固定する。

お願い

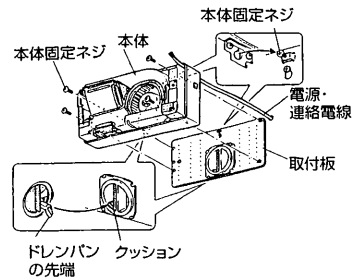
- できるだけ4つ目の均等な位置に固定してください。
- コンクリート壁の場合はコンクリートビスで固定してください。(市販品)
- たて取付けの場合、刻印「B」が下側になるよう取付けてください。
- 電源・連絡電線取出位置と取付板との位置関係は正確に出してください。(取付板の位置がずれると電源・連絡電線取出穴が本体からはみ出してしまいます)



4. 本体の取付け

本体の固定

- 電源・連絡電線を引込口から本体内部に引き込む。
 - 本体と取付板との間にかみ込まないようにしてください。(電源プラグ付を除く)
- 取付板の本体固定ネジに本体を引っ掛ける。
 - ドレンパンの先端を給排気パイプのクッションに乗せてください。(ドレンパン付)
- 本体を壁側に押つけて本体固定ネジ4本で固定する。



お願い

- 本体を吊るす本体固定ネジは仮固定ですので必ず本体を手で支えてネジ固定してください。

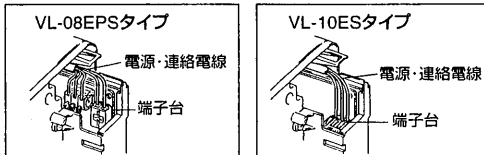
5. 電気工事

警告

- 交流100Vを使用する (直流や交流200Vを使用すると感電の原因になります)
- 端子台接続部のある機種は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する (接続に不備があると火災のおそれがあります)
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行う (接続不良や誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります)

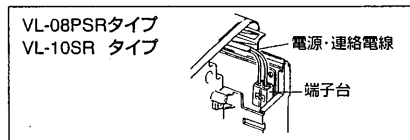
1. 結線をする

- 電源・連絡電線を結線図(裏面)のとおり結線する。
- 端子台から電線が抜けないことを確認する。



お願い 壁スイッチタイプ のみ

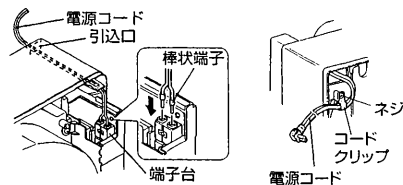
- 結線の前にコネクターリードをはずしてください。(裏面「4.取付けの前に」参照)
- ホタルスイッチや電子式スイッチ(半導体制御による速調スイッチ・タイマー等)など、当社指定以外のスイッチをご使用の場合は、組合せ上、(シャッター動作などの)不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめご確認ください。
- 他社のスイッチを使用する場合も、必ず結線図に従ってください。(スイッチへの結線部分と渡り線が異なり、誤結線となる場合があります)



- 電源プラグ付に変更する場合...システム部材の電源コード(別売P-01DC、P-250DC)を使用する

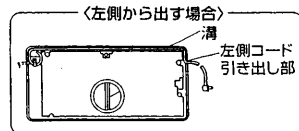
リモコン付 のみ

- システム部材の電源コードを電源・連絡電線引込口から端子台に引き込み結線する。
- 本体背面でコードと同梱のコードクリップとネジで電源コードを固定する。
- 電源コードを左側から出す場合は、右図のように本体上部の溝に通して電源コードを左側にまわし、左側コード引き出し部から出す。
- コード処理後、元通り本体を取付ける。(「4.本体の取付け」参照)



お願い

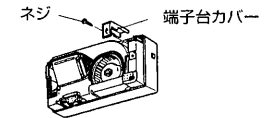
- 電源コードは、引っぱっても動かないよう確実に固定してください。
- 棒状端子は確実に端子台の奥まで差し込んでください。



2. 端子台カバーを取付ける

お願い

- 必ず端子台カバーを取付けてください。

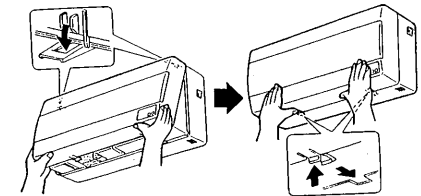


6. パネルの取付け

よこ取付けの場合

1. パネルを取付ける

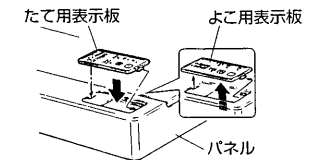
上側を引掛け、下側を押さえてはめ込む。



たて取付けの場合

1. 表示板をかえる

- よこ用表示板を内側から押しはめます。
- 付属のたて用表示板を取付ける。



2. パネルを取付ける

右側を引掛け、左側を押さえてはめ込む。

メモ

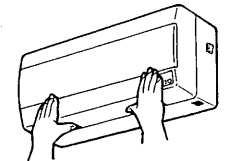
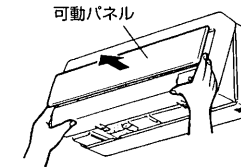
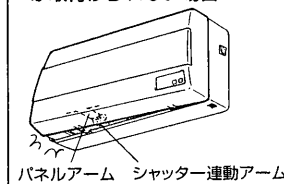
排湿タイプ

のみ (例: よこ取付けの場合)

パネルのアームとシャッター運動アームが当たり、パネルが取付けられない場合

1. 可動パネルを少し持ち上げ、パネルのアームを移動させて取付けます。

2. パネルを閉じます。



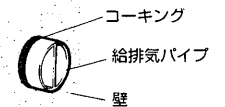
7. 室外側工事

1. 壁穴をふさぐ

給排気パイプと壁穴とのすき間を市販のコーキング材でふさぐ。

お願い

- すき間をふさがないと雨水が浸入します。



2. 室外フードの取付け

室外フードの取付工事説明書に従い室外フードを取付ける。

裏面の「7.取付工事後の確認」および「8.試運転」を行ってください。

フード先付けの場合

マンションで外装工事を先に仕上げる場合、フードを先に取付けておくことができます。以下ではマンションへの取付けを想定して説明しています。

1. 壁穴工事

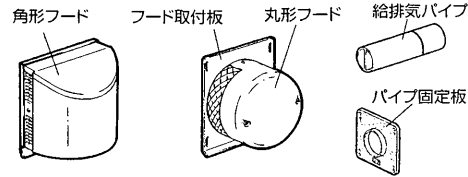
◆壁穴工事 → 裏面を見る

2. 取付け前の準備

1. システム部材の用意

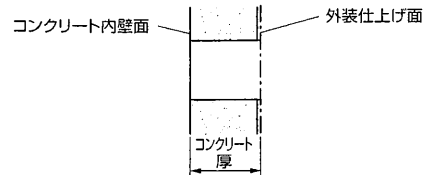
取付けには別売の室外フード、給排気パイプ、パイプ固定板が必要です。機種に適合するシステム部材を用意してください。

- 角穴に丸形フードを使用する場合は、システム部材のフード取付板 P-700T の使用をおすすめします。



2. コンクリート厚を測定する

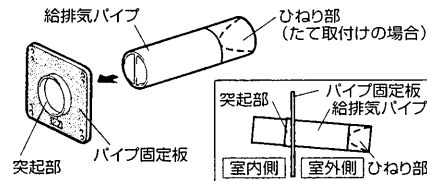
図を参照してコンクリート厚を測る。
(コンクリート厚には外装仕上げ面厚さを含む)



3. 給排気パイプの挿入

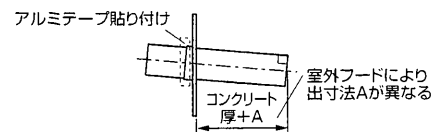
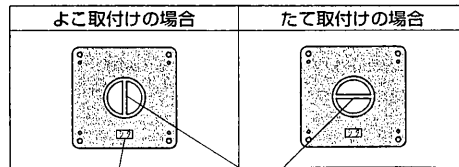
パイプ固定板に給排気パイプを挿入する。

- パイプ固定板には方向性があります。突起部が室内側になります。
- 本体をたて取付けする場合は、給排気パイプのひねり部分を室外側にします。



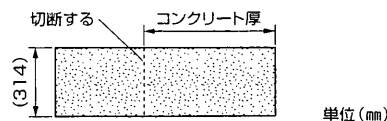
4. パイプ固定板の位置決めと給排気パイプの仕切の方向

- (1) パイプ固定板の上下方向を確認し、右図のように給排気パイプの仕切の方向を決める。
- (2) コンクリート厚 + 「パイプ室外寸法 A」を決め、その位置にパイプ固定板をセットする。
- (3) 給排気パイプに同梱のアルミテープ (大) でパイプ固定板と給排気パイプを固定する。



5. 断熱材の切断

断熱材をコンクリート厚寸法で切断する。



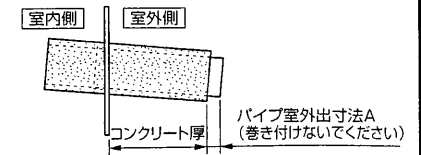
6. 断熱材の巻き付け

切断した断熱材を給排気パイプの室内側・室外側に巻き付ける。

- パイプ室外寸法 A については、上記手順 4 の表を参照ください。

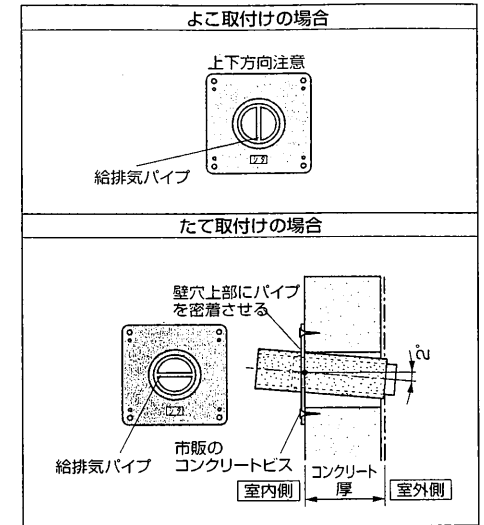
お願い

- 断熱材はパイプ室外寸法 A には巻き付けしないでください。フードが取付けられなくなります。



3. 給排気パイプの取付け

- (1) パイプ固定板の上下方向を確認し、給排気パイプを室内側から壁穴に通す。
- (2) 室内側の給排気パイプが壁穴の上部に密着するようにパイプ固定板を位置決める。
- (3) コンクリートビスの固定位置 (4か所) に印をする。
- (4) 給排気パイプを一旦取り出す。
- (5) コンクリートビスの予備穴を開ける。
- (6) 給排気パイプを挿入し、パイプ固定板をネジ止める。
(市販のコンクリートビス4本)



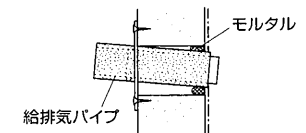
4. 室外側工事

1. 壁穴をふさぐ

給排気パイプと壁穴とのすき間をモルタルなどでふさぐ。

お願い

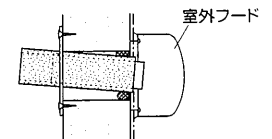
- 給排気パイプには傾斜が必要です。ふさぐ際に上下に無理な力を加えずに仕上げてください。
- すき間をふさがないと雨水が浸入します。



2. 室外フードの取付け

室外フードの取付工事説明書に従い室外フードを固定する。

この時点で室外側の工事は完了です



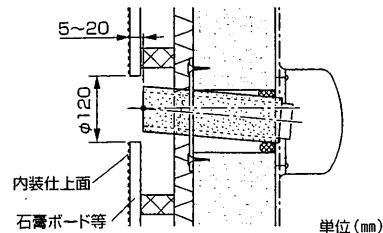
5. 内装工事

1. 給排気パイプの切断と内装仕上

- (1) 内装仕上から給排気パイプ端部の寸法が5～20mm以内の範囲になるよう給排気パイプを切断する。

お願い

- 内装仕上から給排気パイプ端部の寸法(5～20mm)を守ってください。
- (2) 内装仕上面の給排気パイプ位置にφ120の穴を開ける。



2. 電源・連絡電線を引き出す

↳ 裏面をご覧ください。

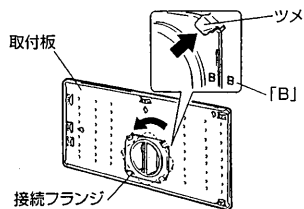
6. 取付板の取付け

1. 接続フランジの取付け

- (1) 取付板に接続フランジを差し込む。
- (2) 左回りに回転させる。
- (3) ツメ4か所に引っ掛けて接続フランジを固定する。

お願い

- 取付板の刻印「B」とフランジ部の刻印「B」が合うように取付けてください。
- 同梱のパッキンは使用しません。
- フランジにツメが4か所ともかかっていることを確認してください。

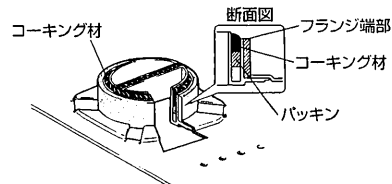


2. コーキング材の塗布

接続フランジにコーキング材を塗布する。

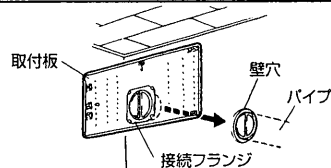
お願い

- フランジ端部より高く塗布してください。
- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング硬化前に次の作業を行ってください。



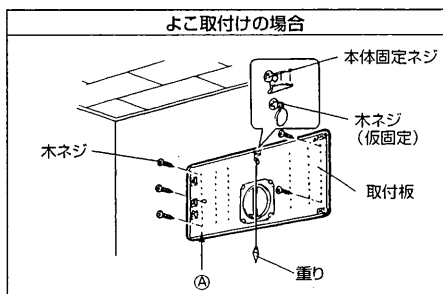
3. 接続フランジと給排気パイプの接続

接続フランジを壁内の給排気パイプに挿入する。



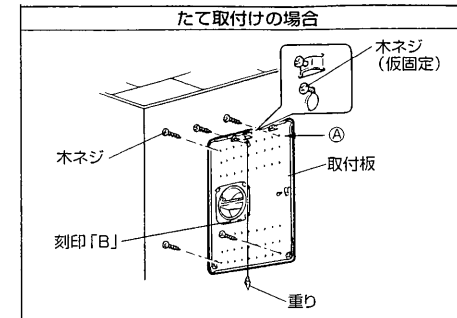
4. 取付板の固定

- (1) 取付板を木ネジ1本で仮固定する。(最後に締めつけてください)
- (2) 本体固定ネジ1本を本体吊用として取付板に取付ける。
- (3) 重りを吊り下げて、取付板の水平を確認する。
- (4) 壁内の補強材のある位置に木ネジ4本で取付板を固定する。
- (5) ④列中央を木ネジ1本で固定する。



お願い

- できるだけ4すみの均等な位置に固定してください。
- コンクリート壁の場合はコンクリートビスで固定してください。(市販品)
- たて取付けの場合、刻印「B」が下側になるよう取付けてください。
- 電源・連絡電線取出位置と取付板との位置関係は正確に出してください。(取付板の位置がずれると電源・連絡電線取出穴が本体からはみ出してしまいます)



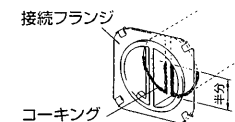
5. 接続フランジとパイプ接続部のコーキング

接続部の下から半分を内側からコーキングする。

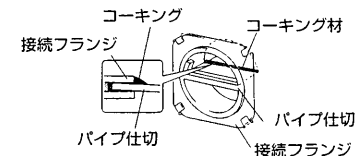
お願い

- コーキングをしないと雨水が浸入します。
- コーキング材をつけたあと表面を平らにしてください。(コーキングが高すぎるとドレン水が排出されません)(ドレンパン付)

よこ取付けの場合



たて取付けの場合

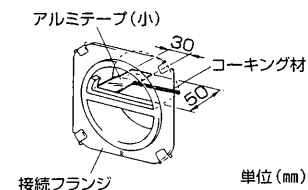


6. アルミテープの貼り付け(ドレンパン付)たて取付けの場合のみ

付属のアルミテープ(小)を図のように左端に貼る。

情報

- ドレンパン先端から出た水を流れやすくするために貼ります。



以下の工事はフード後付けの場合と同様に行ってください。

7. 本体の取付け

8. 電気工事

9. パネルの取付け

裏面の「7.取付工事後の確認」および「8.試運転」を行ってください。